

| 学生インタビュー | 白梅フードパントリーレポートを取材しました

武蔵野美術大学の高橋智子さんが、小平市内の子ども食堂や地域活動の魅力をもとめた本『小平子ども食堂レポート』を刊行したことがきっかけとなり、その一部を再編集した『白梅フードパントリーレポート』が作成されました。

本学のフードパントリー活動にも深く関係されている細江卓朗さん(学校法人白梅学園理事)も交えて、本学の学生が今回取材しました。(※掲載情報は2025年2月取材時)

『小平子ども食堂レポート』を作ったきっかけを教えてください

高橋：地域や子ども食堂等の情報を載せる「連」という情報誌の特集記事で、大学内で小平市が行っているイベントを知ったのがきっかけです。特集ページを1つ好きなテーマで作る企画に参加して、私ともう1人の男の子と一緒に特集ページを作ったのがはじまりです。

これを作ったときの地域の人々の反応が良くて、もっといっぱい子ども食堂があるから、「いろんなところ行ってみたい？」というふうに誘われて取材に行きました。せっかくだったら、巡ったところを本にして、いろんな人にお渡しできたら子ども食堂のことを知ってもらえるんじゃないかなと思って『小平子ども食堂レポート』を作りました。

白梅フードパントリーは、コロナ禍の2020年12月に学内で教職員有志でスタートしました。学生のアルバイト減少への支援や、オンライン授業で少なくなった交流を増やすため、食品や日用品の配布を通じて行ってきました。2025年1月には50回を超え、参加人数は延べ3,254人となり、現在もなお、毎月活動をしています。

地域情報誌の特集記事制作がきっかけとなり、小平市の子ども食堂や地域の魅力を伝えたいという思いから本を作りました



高橋さん

細江さん

いろんな子ども食堂がある中で、それぞれ特徴があるのを強調したかった



本を作るにあたって工夫したことはありますか

高橋：まず文字で埋め尽くさないことはすごく考えていました。やっぱり美大にいたので、とにかく写真やイラストをたくさん使おうと思っていました。

いろんな子ども食堂がある中で、それぞれ特徴があるというのを強調したかったので、まずはその日のお弁当のイラストを描きました。

もう1つは、子ども食堂だけ地域のお年寄りの方も集まれる場所というコンセプトのところと、家族に来てほしいと思ってるところ等、子ども食堂でもバリエーションがあったので、その運営者の声と利用者の声に分けて見られるようにしたり、ぱっと見て分かるように工夫しました。

当たり前なんですけど、絵がすごい上手ですね

高橋：ご飯の絵はけっこう気を遣って描きましたね。味噌汁が全然美味しそうじゃないからちょっと直してみよう、みたいな感じで美味しそうに見えるように、色もちょっと変えたりしてます。

「美味しそう！」といろんな人に言われたので良かったです。

実際に本にするのは大変だったと思いますが、なぜ本を作ろうと思ったのですか

高橋：いろんな子ども食堂を回って、もの作りを学ぶ学生として何かできないかと思ったときに、やはり「本」という情報が詰まったものだったら、いろんな人に読んでもらいやすいのかなと思ったからです。とにかく手に取ってもらうことを目標にしていたので、それに一番適したメディアが「本」だったのかなというふうに思ってますね。



本をデザインする上での写真の入れ方やイラストで工夫した点がありますか

高橋：子ども食堂は場所によっていろんな特徴があるので、それが分かるような写真を選びました。例えば、折り紙教室がある子ども食堂だと、折り紙の写真をあえて入れてみたりしました。

イラストも最初は写真の予定だったんですけど、個人情報の問題で利用者の方の写真は載せないで欲しいということもありました。写真の方が鮮明ではあったんですけど、イラストを書いたことによって、子ども食堂の和やかな感じが伝わって最終的に良かったなと思っています。

『白梅フードパントリーレポート』の見出し選びもかなり工夫されたかと思いますが

高橋：先生にもいろいろ指導されました。見出しは、最初はもっとシンプルなものでしたが、「生まれる交流の輪」の方がいいんじゃないか等、先生にもアドバイスを受け、出来上がりました。

先生はデザイナーではなく出版社の編集者ですので、本作りを1から10まで教えてもらえる授業でした。そこで私はこの企画を持ち込んで、最終的にボリュームミーな本が先生と一緒に作り上げた感じでした。

フードパントリーも最初はコラムみたいな感じで、子ども食堂の途中に入れようという話だったんですけど、思いのほか内容が濃いから、「もうこれも一つの目次として入れましょう」と先生に言ってもらって、このようなフードパントリーの内容になりました。

イラストを入れることで親しみやすいデザインに仕上げ、多くの方に協力してもらいながら本が出来上がった



白梅フードパントリーは、私は2、3回ぐらい来てるんですけど、もうなんか「実家」みたい！



白梅フードパントリーをインタビュー・取材してみて、どのようなことを感じましたか

高橋：コミュニケーション能力が高くて、私達のことを受け入れてくれるマインドみたいなのを感じました。私達がインタビューしているのに私達をもっと話したくなるみたいな感じで。やはり人の話を聞き出す能力が自然に備わってる感じがして、安心して取材することができました。

インタビューする時けっこう苦勞したんですけど、白梅のフードパントリーを取材したときは、難しいって感じることもすらくなく、私達のこともほぐしてくれる感じがありました。

いつの間にか世間話ではないですけど、打ち解けすぎていろんなことを教えてくれました。「バイトを募集してたから来ました」とか「友達から聞いて来たんだよね」「実家暮らしだからお菓子とかお野菜とか毎回もらってるんだよね」みたいな感じでいろいろ教えてくださったのが良かったなと思います。

白梅フードパントリーは、私は2、3回ぐらい来てるんですけど、もうなんか「実家」みたい！

2回目行ったときには全然関係のない友人を誘って、白梅ってこういうことをやってるんだよみたいな感じで連れて行きました。そして理事長からのリンゴをもらい後で美味しく食べました！

支援という場所でいろんな学生とすれ違うだけでも、いろんな人と一緒に集まれるのは、白梅にしかない魅力かなと思います。

「白梅って魅力的だな」って取材してから思っています。

<白梅の魅力を伝える 在学生スタッフ紹介>

小原さん：大学と学生の魅力を最大限伝えられるように頑張ります！

宮本さん：白梅の魅力を沢山伝えて、白梅のことをより多くの人に知ってもらえるよう頑張っていきます！

小さなきっかけから興味が広がり、地域活動を通じて自分の特技を生かせる居場所が広がっていった

本を作るきっかけで地域活動について興味を持ったとおっしゃっていましたが、いつ頃から興味をもっていましたか

高橋：子どもの貧困とかヤングケアラーとか、子どもや高齢者の課題、孤立化という社会的な問題にちょっと興味がある程度でした。大学3年生の最初の授業で、社会問題を取り扱う授業を選択して、「小平NPOセミナー」というNPO法人と大学生をマッチングするイベントに来てみない？と紹介されたのがそもそもの始まりです。

ちょっと足を踏み入れたら、あとはもういろんな大人の方や地域の方々が、いろんなところに私を連れて行ってくださいました。私が持っているデザインという特技も様々なところで生かされたのが、地域活動をやった良かったなって思っています。きっかけは小さかったんですけど、そこからどんどん広がっていきました。

今回この本を作ったり、子ども食堂のインタビューをした活動が、卒業後の進路決定に何か繋がることはあったでしょうか

高橋：私は新聞社のデザイナーとして就職するんですけど、間接的に困ってる人を報道という形で事実をいろんな人に伝えられる。形は違うんですけど、子ども食堂レポートと近いようなお仕事をさせていただけることになりました。就活をしているときは、そんなことは特に考えていなかったんですけど、やっぱり根底では、こういうことに携わりたいと思ってたのかなって思ってますね。

細江：(白梅の)みんなの多くは、これから人と付き合う仕事に就くわけで、地域みたいなのところに入ってボランティアをして、経験を積んだ方が僕は良いと思います。もちろん大学の授業は大切ですよ！



子ども食堂に取材した時、子どもたちと交流した感想を教えてください

高橋：癒しですよ。私、子どもが苦手だったんですけど、子ども食堂に携わってから、子どもと接して親御さんと楽しく会話して、子どもがめっちゃかわいことに気づいて、この2、3年で子どもが大好きになっちゃいましたね。垣根がない感じも楽しかったですし、子どもって遠慮しないからそこが心地よかったです。

大学にずっといると、学生と先生としか交流しなくなるんですけど、私は地域の人といろいろ交流してたので、そこで「価値観変わる」というと薄く感じるんですけど、実際、高齢者の人ってどんな人なんだろうとか、子ども食堂でちっちゃい子どもと交流が生まれたり等、いろんなことを知ることができて良かったです。

意外と子どもや高齢者の方等いろんな世代の人と関わってきた大学生ってそんなにいなかったと思うので、大学以外でいろんな活動してたのが、就活のときにプラスポイントになりました。

細江：白梅の場合は、実習や白梅子育て広場等があったりして、学外とコンタクトする機会が比較的多いんだよね。

高橋：本当にそこが魅力的だと思いますね。

地域の子どもたちや高齢者の方などの様々な交流を通じ、自分の価値観が変わることが、地域活動の魅力の1つ



＜白梅の魅力を伝える 在学生スタッフ紹介＞

名雪さん：白梅の魅力を余すことなくお伝えできるよう頑張ってます！みなさんの大学選びをサポートします！^^

中馬さん：より多くの方が安心して入学できるよう、これから白梅の魅力や情報を発信していきます！

取材で訪れた子ども食堂での印象的なエピソード等あれば教えてください

高橋：移動式子ども食堂カモミールさんにお世話になった時は、最初はお手伝いだったけれど、クリスマス会の飾り付けもやって下さい。お願いします！」と言われました。がんばって作ったらすごく喜んでくださって。

私の得意なことを活かしてくれる場所みたいなのが生まれたのが嬉しかったですね。私の特技を活かしてくれるように何か環境を作ってくれるというのが、子ども食堂に行って良かったなと思って。地域活動の魅力だと思います。

細江：その時に清修（本学併設の中高一貫校）の生徒も来て手伝ってくれて。このデコレーションの飾りを。清修に持って行って再利用されています。

高橋：私達も、クリスマスの飾り付けを作るだけで終わるかと思っていたのに、いろんなところに貸し出されてめっちゃ嬉しいですよ。私の特技を活かせる場所にもなってくれたのが、やっぱり嬉しかったかなって思って。

私はたまたまそのときの特技が絵を描くことだったので、その特技を買っていただきましたが、いろんな学生にもいろんな得意なことがあるので、それぞれの能力を生かして、この地域に携わることができると良いなと思います。

私の特技を活かせる場所にもなってくれたのが、やっぱり嬉しかったかなって
いろんな学生にもいろんな得意なことが
もちろんあるので、それぞれの能力を
活かして、この地域に携わることができる
のが魅力かなって思ってます



移動式子ども食堂 カモミール
配布場所が異なる移動式子ども食堂。
事前にSNSやチラシで確認を。
【場所】小平市内の公民館
【日時】第1.3水曜日 17:30～
【料金】大人300円、高校生以下無料

今でも（大学で）活動が続いている
フードパントリーは

おそらく全国で白梅だけ

本当に困ってる人も来てるし、そこに行けばちょっとお菓子がもらえるみたいに来てる人もいます。でもね、それはそれで僕はいいと思ってて

細江さんはいろんな地域活動に参加されていますが、白梅フードパントリーに参加している学生の印象をお聞きしたいです。

細江：フードパントリーに来てる学生さんはやっぱり困っている人が多い。活動の最初は、井原理事長がコロナ禍のときに、1人の退学者も出さないと宣言して様々な支援をしてくれていて、そういう困っている学生さんを何とかしたいと思って手伝うことにしました。

コロナ禍のとき、全国でフードパントリーとか、学生をサポートしたいろんな大学があったけど、いまだ活動が続いているフードパントリーはおそらく全国で白梅だけ。しかも最近は円安で物価が上がって大変だからね。

白梅のすごいところは、先生が一生懸命やっているのと、学生さんが品物を仕分けたりするのをアルバイトとして雇っていること。そこまでの手厚い大学はおそらくないと思います。参加した学生にメッセージカードを書いてもらって、「こういうのがあって助かった」とか「こういうものが欲しい」とリクエストがあった場合は、次回にはなるべく揃えるようにしています。

大学の先生が一生懸命やっていて、理事長もサポートしてくれて、本当に困ってる人も来てるし、そこに行けばちょっとお菓子がもらえるみたいに来てる人もいます。でもね、それはそれで僕はいいと思っています。

僕は子ども食堂も手伝っているけど、去年のクリスマスに白梅の卒業生がボランティアに来て「白梅のフードパントリーは今もやっているんですか？」って聞いたら「やっているよ」と答えたら「私、本当に学生のときにフードパントリーに助けられました」と言っていた。

（白梅は）教職員と学生さんの距離は本当に近いし、「フードパントリーにお世話になったな」と思って世の中に出て、その後、自分が逆に支援する方に回ることもできるかもしれないね。

